日本共産党名古屋市議団 市政ニュース
2017年3月22日 No.212 http://www.n-jcp.jp
名古屋市中区三の丸三丁目１－１ 電話052(972)2071 FAX052(972)4190 発行・日本共産党名古屋市会議員団

経済水道委員会(3月22日) 江上ひろゆき議員　西山あさみ議員

天守閣木造復元関連予算案

減自公民が賛成　日本共産党は反対（経済水道委員会）

天守閣の解体・木造化案が委員会可決

3月22日の経済水道委員会で、昨年６月議会から継続審査になっていた名古屋城天守閣の解体・木造化予算案が、日本共産党と丹羽議員（自民）以外の賛成多数で可決されました。同委員会の審議では、自民党や公明党の議員も、ときには共産党議員以上に当局を激しく追及していました。

附帯決議は制約にならない

自民・民進・公明は附帯決議を付けましたが、その内容は、「入場者数目標の達成への努力」「寄付金、補助金、減税見直しも含めた財源確保」「事業費の圧縮努力」など、木造化事業を進める上では当たり前のことを述べているだけです。

505億円　根拠のない収支計画

天守閣木造化には５０５億円という巨額の事業費がかかります。河村市長は、木造復元後の入場者数が現在の２倍以上の４００万人程度に増え、それが５０年間近くも継続することを前提にした収支計画を持ち出しました。入場者数激増の根拠を質した昨年２月議会の共産党代表質問に、河村市長は「税金を使うなどと人を惑わすようなことを言ってはいけない。税金は使いません」と答弁しました。

市長は開き直り

江上ひろゆき議員

ところが、経済水道委員会では、「何もしなければ時間とともに入場者数は落ち込んでいく」という日本総合研究所の意見が示され、収支計画の根拠のなさが明らかになりました。すると、河村市長は「仮に収支がよくなくとも、必ず推進すべきものである」と開き直りました。人を惑わしてきたのは、「税金は１円も使いません」と断言してきた河村市長です。

同委員会では、４回の定例会にわたって各会派が熱心な議論をかわし、収支計画をはじめ木造化計画のさまざまな問題点があぶり出されました。それだけに今回、自公民の態度が急変したことは不可解です。

市長選で審判を

現天守閣は、6億円をかけて市民の手で復元された戦後復興の象徴です。これを急いで壊すことに、市民の合意もありません。だからこそいったん立ち止まり、来月の市長選挙での市民の審判を踏まえて考えることが、民主主義ではないでしょうか。

日本共産党の西山あさみ議員は、以下の理由で反対をしました。

日本共産党の反対理由

1、名古屋城天守閣の木造復元のための基本設計予算については、基本協定書を結ぶことが含まれており、総事業費５０５億円、完成期限など全てを認めることになるため。
2、２０２２年１２月の木造復元については市民合意もなく、市民の思いがこめられた現天守閣の解体につながるため。
3、入場者数の見込みについても、本市がおこなった入場者数の積算について“１０年以上の将来にわたる予測はほぼ不可能”と評価されており、第三者機関の調査もおこなわれていない中で明確な根拠も示されていないため。
4、市長はタウンミーティングなどで“税金投入はしない”どころか“利益まで生み出す”としてきたにも関わらず、委員会に示された資料では“収支がよくなくても必ず推進すべきものである”としている。

西山あさみ議員

今回示された市長の考えは万が一だとしても、市民に対して偽りの発言をしたことになります。
入場料収入でまかなえなければ税金を投入することになり、市民負担につながる予算については到底認められないため反対します。